

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年7月9日

【評価実施概要】

事業所番号	1175300241
法人名	株式会社あすなるホーム
事業所名	あすなるホーム北本
所在地	〒364-0013 埼玉県北本市中丸4-51-5 (電話) 048-593-4150

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年6月23日

【情報提供票より】(平成20年5月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 12人, 非常勤 11人, 常勤換算 17.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,500 円	その他の経費(月額)	20,000円+実費
敷金	有 (80,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,400円			

(4) 利用者の概要(平成20年5月15日現在)

利用者人数	27 名	男性 8 名	女性 19 名
要介護1	4 名	要介護2	10 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.7 歳	最低 64 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	埼玉脳神経外科病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、駅から徒歩で20分ほどのところに位置している。ホームの玄関前には林があり、公園のようにベンチが置かれ、利用者のみならず地域の人たちにとっても憩いの場になっている。2階建ての3ユニットであるが、1階は玄関を中央に左右に、A棟、B棟と分かれており、利用者も職員も自由に行き来し交流がある。2階はC棟になっているが、特徴的なのは屋上がフルに活用され、洗濯干し場はもちろん、夕方には夕焼けが眺められ、夜間時には星を見ることができ、夏の季節には利用者も職員も一緒になって、花火を楽しむことが出来る。職員にとっても気分転換の場所である。職員は礼儀正しく、仕事に対する信念と誇りを感じ取ることができ、質の高い職員を配していることもこのホームの優れたところである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画の達成状況や課題の確認を記録することが改善課題として挙げられたが、目標(達成度、満足度)を1日の中で確認しながら、月単位で職員相互が共有し、会議の中で記録されている。職員の休憩時間や休憩室についての取り組みは改善されている。刃物の管理については外部派遣により調理されているため利用者が触れるようなことはない。研修への取り組みは職員の勤務体制の整備が遅々として改善されないため、外部研修への参加が困難な状況である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>3ユニットの各代表者にコピーされた自己評価が配付され、職員はフロアごとに周知されている。管理者は代表者会議において検討された内容を基に、自己評価としてまとめている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回、定期的開催され会議録も整備されている。市の担当課の職員、地域包括支援センター職員、自治会副区長、民生委員、利用者家族代表、施設長を構成メンバーとし、ホームの概要や利用者の生活状況の報告、外部評価の取り組み、改善点、地域行事への参加などを検討項目として話し合われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月に1度、利用料の納入と利用者への面会のために来所してもらっている。現在のところ運営に反映するような意見や苦情、不安などの話は特になかったため、その対応についても職員に周知、共有されることはなかったが、家族の意見が聞き入れやすい工夫(意見箱の設置、アンケートへの協力など)を今後の検討課題としている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>設立当時は住宅地が密集しているところではなかったが、数年の間に住宅も増え、地域活動、班活動への参加が活発になってきている。自治会へも入っているため、地域の情報も把握され地域住民として認知されている。公園の散歩時や地域の商店への買い物の時なども気軽に声をかけてくれるので利用者とも顔馴染みである。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念をつくりあげている。理念の中には、「地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設を目指します」と掲載されており、日々の実践の中で行われている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「いつでも安心して生活できる家を提供します。」「一人ひとりの感性を大切に、心を込めた介護サービスを提供します。」という理念を基に、家庭に居るような雰囲気大切にしながら理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加しており、回覧板なども回覧されているため、地域の行事や情報は把握している。地域での掃除などを一緒に行い、交流に努め、地域の中にある商店に同行することもあり顔見知りになっている。そのため声をかけられることも頻回にある。利用者の散歩時などには挨拶が交わされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットにコピーしたものを配付して、職員に周知している。評価後、各改善項目については、2か月に1回開かれている代表者会議において改善に向けた話し合いが行われ、職員にも情報が共有され、一緒に改善に向けての取り組みがされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	平成18年の5月に1回目の会議を開催してから定期的に運営推進会議が行われている。会議では、ホームを理解してもらうためにホームの概要の説明をしたり、利用者の様子などを報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とはケアプランの作成報告や認定調査などの依頼の件で連絡を取り合っている。また、利用者の生活支援などのこともあるため、常に福祉課と連絡調整をしており、情報の交換や共有がされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用料の支払いが窓口でも行われているため、家族は月1回ホームを訪れ、その際、利用者の健康状態や日頃の生活の様子など伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今のところ、家族からの不満や苦情といったものはない。要望や意見などは、来所時に直接、管理者や職員に伝えられているが、ホームの運営に関する意見は反映されていない。		家族からの意見や要望に対しては、短期で応えられる内容と、長期的な視点で考えられるものがあるが、家族アンケートを実施するなど意見を出しやすい工夫が望まれる。ケアの質がさらに向上するように、家族の意見を積極的に職員間で話し合ったり、運営推進会議で検討されることを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職については、利用者へ与える影響に配慮し、あえて利用者には説明していないが、聞かれた時にはその理由を話すようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在の職員の勤務体制で研修に参加することは厳しい状況であり今後の課題としている。ケアの実践の中で学ぶ機会があるため、チームワークとしてのスキルは育成はされている。		段階的に力をつけていくためにも、年間の研修計画を立てるなど工夫して内部・外部研修の機会を増やし、なるべく多くの職員が受講できることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の担当者の協力もあり、市内4か所ある地域密着型のグループホーム・小規模多機能型居宅介護事業所とは、相互に連絡を取り合い、市の公共施設を借りて研修や情報交換をしている。今のところ、管理者が中心になり参加しているが、今後は他の職員の参加や相互の施設での見学を兼ねた研修会などを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>地域の方を優先的に受け入れている。新規の利用者に対しては、実態調査時の基本情報を基に、日頃の言動や身体の状態などを配慮しながら、その時々に合わせて対応をしている。また、入居してしばらくはマンツーマンで対応することもある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中では、職員は常に利用者に対して「ありがとうございます」という気持ちで接している。「やらせていただいている」という謙虚な姿勢が日頃のケアの中に活かされており、言葉遣いなどにもその姿勢が感じられる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その時々々の要望や要求に対してはチームケアとしてできるだけ沿うようにしている。限られた職員の中で、把握が困難な状況の時は、利用者に説明し納得してもらいながら、出来る時に丁寧に対応している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの短期目標が日々の中で具体的にチェックがされるようになってきているため、職員の中でも目標の意識付けがされている。1か月に1回の職員カンファレンスの中でも、一人ずつの目標のモニタリングが報告されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の変化に応じた計画作成に努めている。目標が1日単位で確認され、1か月単位で目標の達成度や満足度が報告されているため、見直しや現状に即した計画が作成されやすくなっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎、緊急時の受診、地域内の医院での薬の受け取りなどには散歩の途中に寄るなど、本人や家族の状況に合わせて臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて地域の医療機関への受診の対応も行っている。かかりつけの病院への受診は、基本的に家族に対応してもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員はターミナルに対し不安要素をもっているが、取り組みの必要性を感じている。ターミナルに向けた対応の方針については、話し合いを重ねることで共有に努めている段階である。また、ターミナルケアを想定したマニュアルの作成を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人台帳など個人に係る情報は、利用者の目の触れない事務所などに保管されている。居室前の表札は名前の他に花の名前で統一されている。契約時において、会議などで氏名が公表されることを前提として、家族からも同意を得ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの健康状態や様子に合わせて、入浴や散歩、その他のプログラムの変更など、柔軟に対応している。食事の内容や量なども気分に応じて考慮され、希望にそった支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の内容や量には概ね、満足しているようで、食事の後には会話が見られる。身体機能のレベルの低下から食事介助が必要な利用者にはマンツーマンで介助がされている。準備や片付けにおいても利用者も加わっている。また、月に1度、外食したり、出前を取るなど食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴が行われている。時間帯も午前10時から午後の5時までの間に自由に入浴が出来るようになっている。職員は、見守りの必要な方、介助の必要な方と、一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者には、掃除、タオルたたみ、食器拭き、米とぎなどを手伝ってもらうことで、役割をもてるように支援している。気分によってはできないこともあるため、本人の気持ちを大切に、様子を見ながら力を活かすことができるよう場面づくりに努めている。また、楽しみごとの一つとして、レクリエーションもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	オムツや日用品などの買い物は散歩の途中にお店に寄るなどしながら日常の中で行われている。身体機能の低下により1対1の外出支援が困難なため、一人ひとりの希望に沿えない場合もあり、利用者には説明し納得してもらった上で出来る時間に対応している。		身体機能の低下に伴ない、一人ひとりの希望に即した対応は困難を要すが、勤務体制の整備を図りながら改善されることを期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、職員が目が行き届く時間帯は施錠しないようにしている。居室においては防犯のために、自分から紐を施錠の代替としている利用者もいるが、職員が工夫し見守りできるようにはなっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難・誘導訓練が実施されている。夜間時の緊急事態においては夜勤が3人体制ということもあり、状況判断により管理者からの指示を得て対応できるマニュアルが作成されている。また、運営推進会議において災害時の協力依頼の確認がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、昼、夕食のほかに午前、午後におやつがあり、水分の補給がされている。調理は職員ではなく外部派遣により専門に調理されている。小食の利用者には別メニューを準備したり、刻み食やミキサー食などでも対応するなど、個別の食の支援もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ユニット共有の玄関は天井も高く広々とした空間になっている。居間は採光もあり、明るく落ち着いた雰囲気がある。テレビの音量も適度に感じられ、気にならず家庭的な雰囲気である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の方が利用しているということもあり、季節に応じて家族により必要なものがそろえられている。そのほかに使い慣れた馴染みのものが持ち込まれたり、写真や花が飾られ、さっぱりとした中に清潔感が感じられる。		